

2号横穴墓 調査前



前庭 横断土層堆積状況



羨道 横断土層堆積状況





閉塞石出土状況（正面）



閉塞石出土状況（上より）



玄室内遺物出土状況



2号横穴墓 遠景



完掘状况（正面）



玄室～羨道 排水溝



玄室 奥壁



玄室 左側壁



玄室 右側壁

1号横穴墓 出土遺物
須惠器 坯蓋



70-1

須惠器 坯蓋

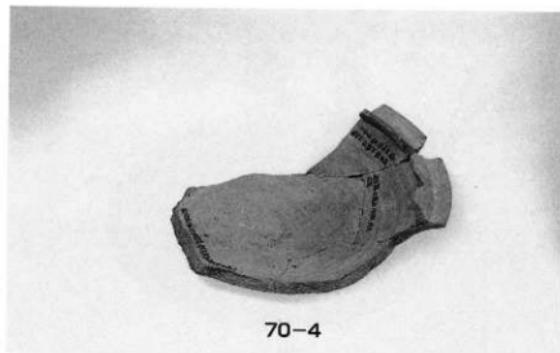


70-2

須惠器 坯蓋

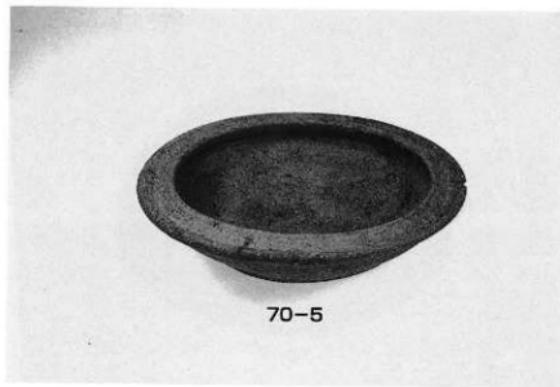


70-3



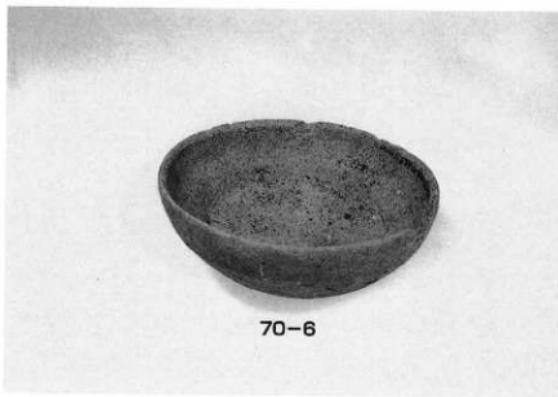
70-4

須恵器 壺身



70-5

須恵器 壺身



70-6

須恵器 壺身



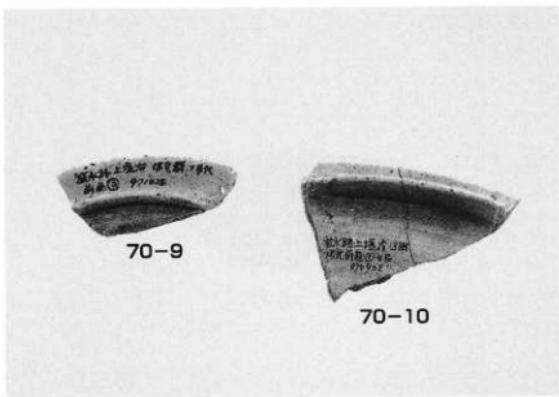
須惠器 壺蓋

70-7



須惠器 壺身

70-8



須惠器 壺身片

70-9

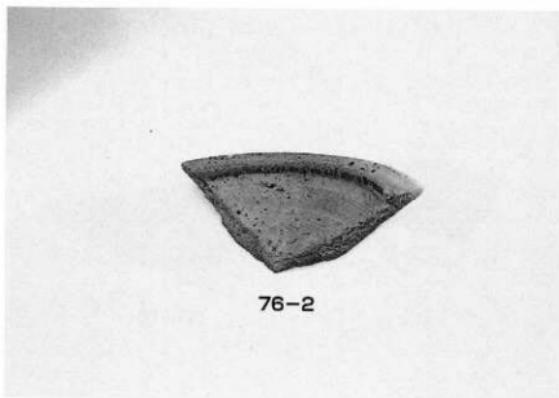
70-10



須惠器 高坏

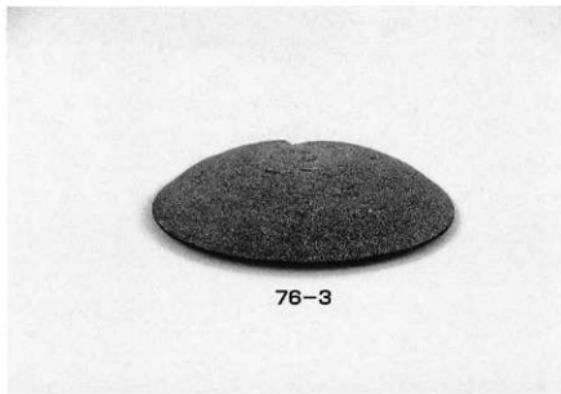


2号横穴墓 出土遺物
須惠器 坏身



須惠器 坏身

須惠器 坯蓋



76-3

須惠器 坯身



76-4

ガラス小玉



77

V. 上塩冶横穴墓群 第19支群

V.上塩治横穴墓群第19支群

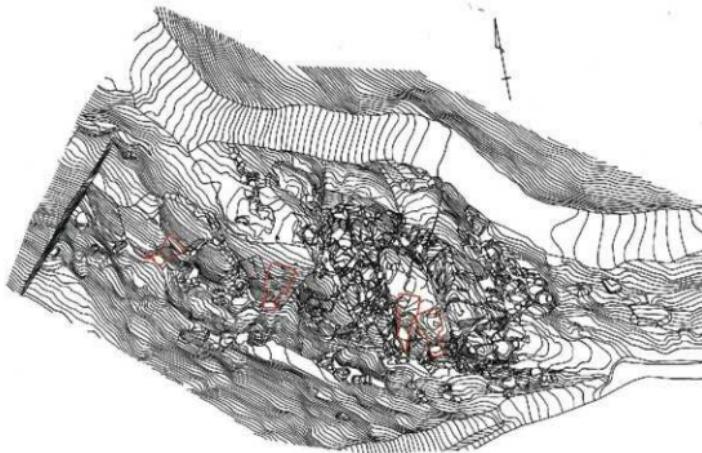
上塩治横穴墓第19支群は、38支群からなる上塩治横穴墓群の最も南にあり、「蔵ヶ谷」と呼ばれる谷に面した丘陵斜面に位置している。

調査前から4基の存在を報告されているが、そのうち実際開口していたのは2基だけであった。他にも横穴墓等が埋没していることが予想されたため、斜面全体を対象に調査を行った。

最初に、横穴墓の数を確認するために縦2m×4mの試掘トレンチを9ヶ所設置した。その結果、最下位のT-5トレンチより須恵器片が数点出土したため、他の横穴墓の存在の可能性を考え斜面全体を人力により掘削したが、新たな横穴墓は発見されなかった。なお、この須恵器のほとんどが尾根上に位置する三田谷3号墳のものであることが判明した。

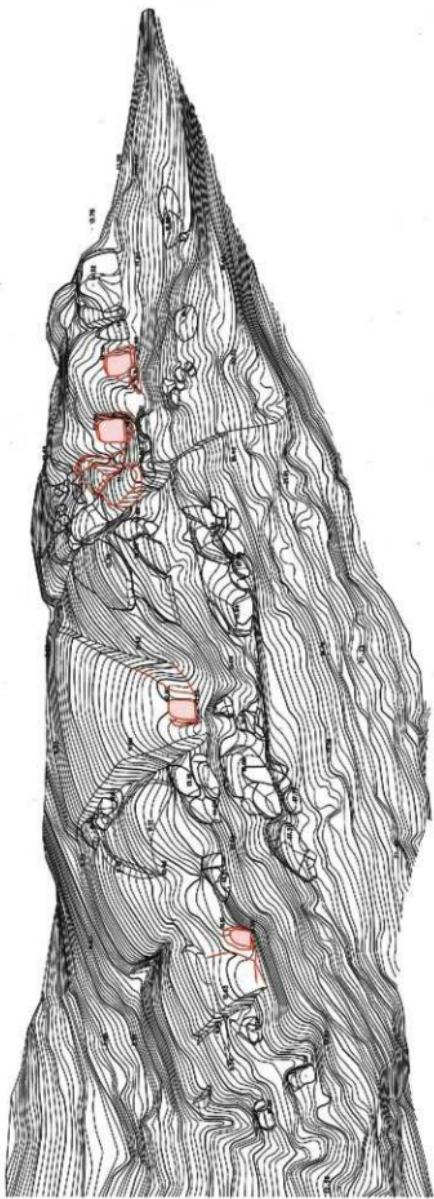
19支群と同じ尾根の南西側斜面にある横穴墓は、今回の調査の際に発見されたものとして、38支群として発見届が出されている。しかし、38支群を19支群4号横穴墓として認識していた、という見解もあること、また、今回4号横穴墓としているものが完全に埋没していたことから考えると、4号横穴墓が新たに発見された横穴墓の可能性もある。

なお、谷を挟んで反対側にも平坦面を有する丘陵があったため1m×5mの試掘トレンチを14カ所設定し、調査を行ったが遺構やそれに関係する遺物は発見されなかった。



第80図 19支群 平面配置図

第81図 19支群 配置図

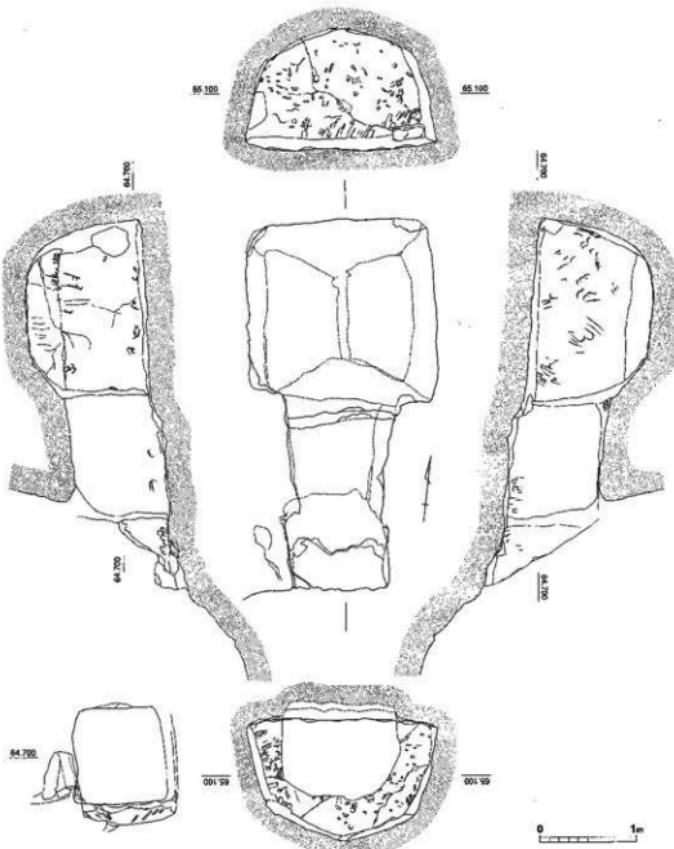


1号横穴墓

前庭・閉塞

開口方向はN~6°~Eである。

一般的な横穴墓のような面積をもった前庭は無く、幅90cm、長さ60cmのスペースしかない。床面には全体的に溝状の加工痕が残っている。羨門付近には閉塞石と思われる長方形の石が2つ、その上に横長の自然石が1つ置かれており、石を取り外したところ、閉塞石の幅だけ床面が粗い加工が施されただけで1段高くなっていた。これは、閉塞石を置くことを意識して意図的に段を形成した可能性がある。閉塞石は高さが25cm程度であるため、この石を根石として置いた後、上に礫を積み上げたか木



第82図 1号横穴墓 遺構実測図

製の板などで閉塞したものと思われる。また、前庭左側は正面からの見栄えを意識した加工が施されている。

狹道

幅75cm、長さ90cmで、床面には多くの平刃状工具による加工痕が残されている。また狹道から玄室へ至る玄門付近では、床面は15cmほど高く、段状に加工されている。

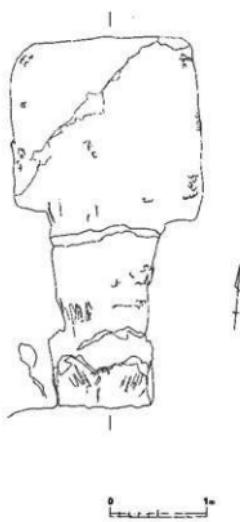
玄室

幅1.95m、長さ1.8mで、多少横幅が広い平面形である。高さは1.2mで、全体的に小さめの横穴墓である。天井部分は屋根形に加工してあるがノミのような工具で刻まれている界線は粗く、壁、床も工具痕がはっきり残っており仕上げが多少雑な印象を受ける。また、玄室の左奥には直径30cmの穴があいており、隣接する2号横穴墓の玄室とつながっている。穴は加工痕の状況から1号横穴墓側からあけ、2号横穴墓に入るための盗掘坑であると思われる。この穴の周囲から大量の炭が検出された。

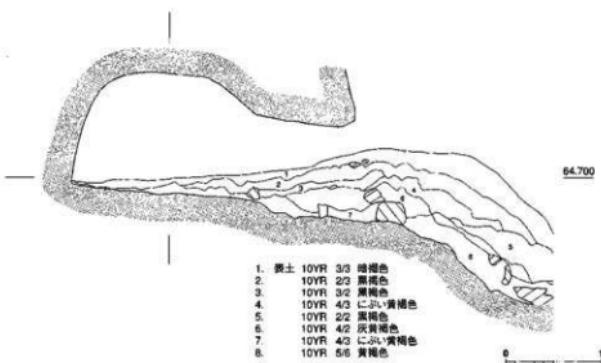
遺物の出土状況

横穴墓の内部からは遺物は出土しなかったが、前庭下の斜面から須恵器片が10数点出土していることから、もともと中にあったものが、後世盗掘などで外に出されたものと思われる。

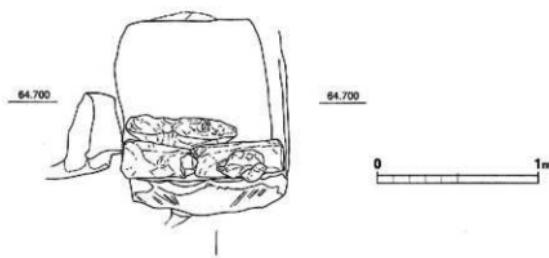
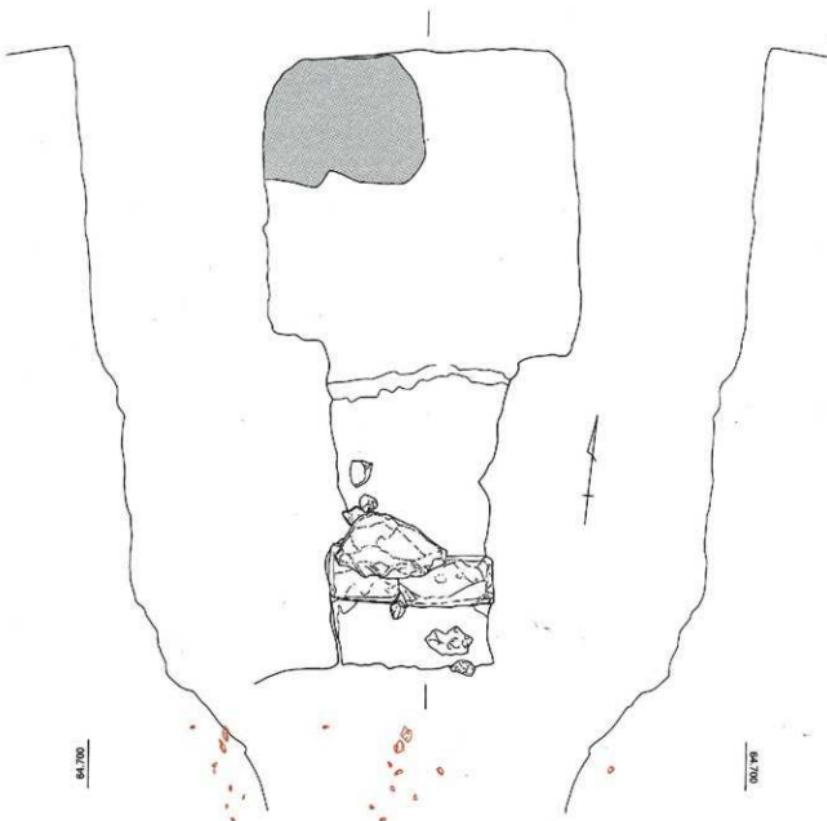
遺物



第83図 1号横穴墓 床面加工痕



第84図 1号横穴墓 土層堆積状況

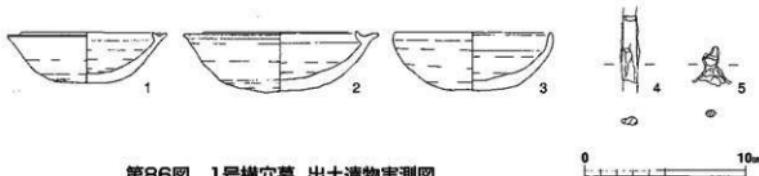


第85図 1号横穴墓閉塞状況及び遺物出土状況

須恵器3点、用途不明の鉄製品2点が出土している（第86図）。

1・2は大谷編年でいう6期のものであり、この横穴墓が造営されたときにともに副葬品として納められたものだと思われる。3は立ち上がりが無くなった時期のものであるが、他の2点とそれほど時期が異なるものでもないので、おそらく同時に納められたものであると思われる。この須恵器が前庭前の斜面に落ちていたということは、おそらく追葬もしくは2号横穴墓への盗掘など何らかの原因で、一度中のものが外に出されてしまったものと思われる。

鉄製品の方は排土中からふるいによって確認されたもので、羨道付近にあったと云うことしか分かっていない。4は全くの用途不明であるが、5はおそらく何かの止め金具のようなものであったと思われる。



第86図 1号横穴墓 出土遺物実測図

2号横穴墓

開口方向はN~21°からWである。

前庭

幅90cm、長さ1mで1号横穴墓とは異なり、はっきりとした面積を持つ前庭がある。わずかに溝状の加工痕が見られるが、加工痕はほとんど確認できず、丁寧な仕上げであるとともに多少摩耗しているものと思われる。

羨道

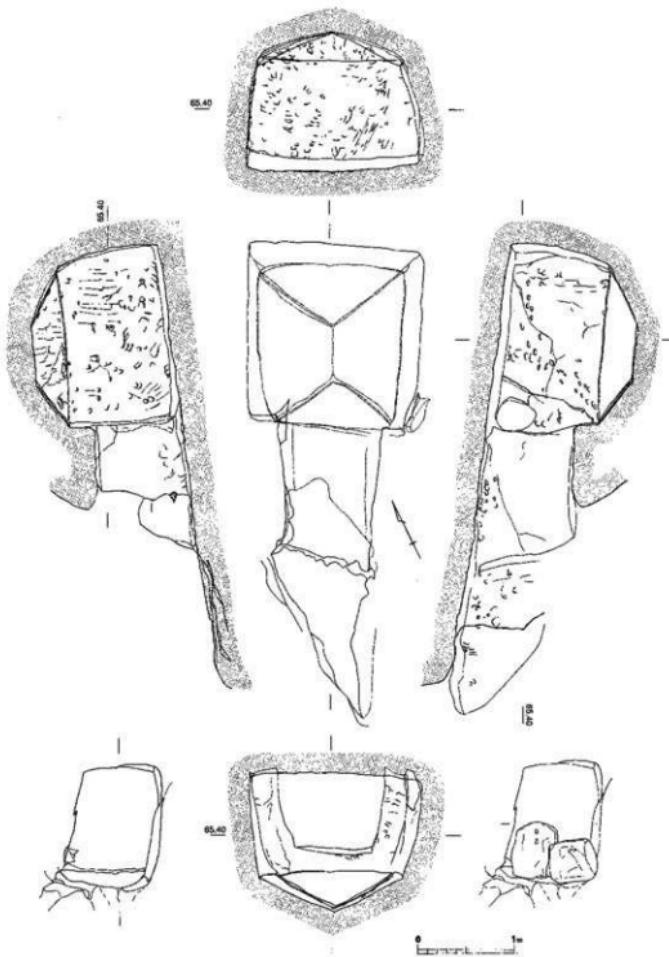
幅90cm、長さ1.4mで前庭同様加工痕がほとんど見られず、真っ直ぐ玄室へ続いており、1号横穴墓で見られたような玄門付近での段は無い。羨門には閉塞石と思われる高さ50cm程の板状の石が2つ置かれていた。羨門の閉塞石を受けていたと思われる割り込みから、閉塞石がずれていたこと、また、閉塞石の下から須恵器片が出土したことから、少なくとも1度は開口しており、当初からあったものが置き直されたものと考えられる。

玄室

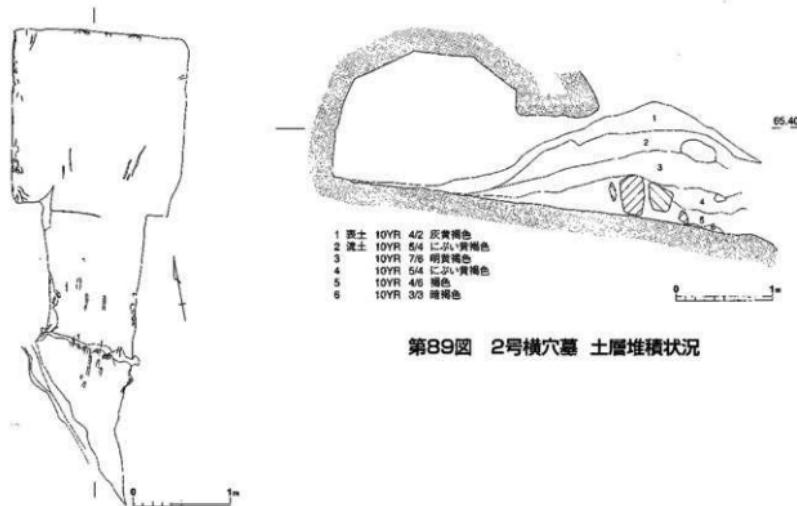
幅1.8m、長さ2m、高さが1.4mあり、1号横穴墓に比べると多少天井が高くなっている。天井部は屋根形に加工され、はっきりとした界線も施されている。床面の加工痕はほとんど無いものの、壁・天井部には多少残っている。1号横穴墓とつながっている穴は右手前に開いている。主軸は1号穴よりもやや西へずれている。

遺物出土状況

前庭・羨道・玄門付近から小さな須恵器片・土師器片が合計30点近く出土している。また前庭から

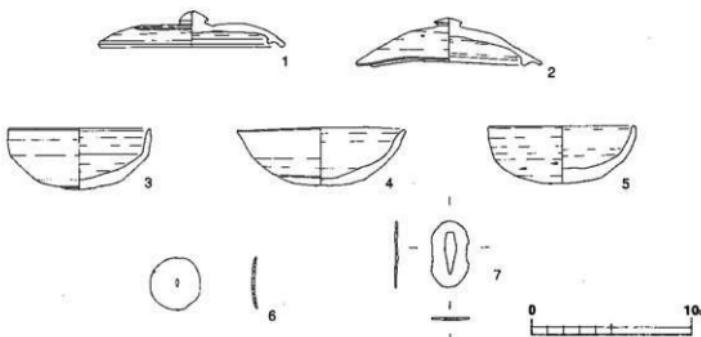


第87図 1号横穴墓 遺構実測図



第88図 2号横穴墓 床面加工痕

は鉄製品と思われるものが、羨門付近の黄褐色土層上からは2つの用途不明の銅製品が出上している。この黄褐色土層は玄門付近から前庭まで続いており、遺物はちょうど閉塞石の上や羨門の前付近で出土しているため、この層の上面の段階で盜掘を受け、遺物が外に出されたものと思われる。前庭の閉塞石付近には完形に近い須恵器蓋坏が3点出土している。



第90図 2号横穴墓 出土遺物実測図



第91図 2号横穴墓 閉塞石及び遺物出土状況

遺物（第90図）

須恵器5点、土師器片数点、銅製品2点が出土している。須恵器は1号横穴墓のものと比べるとやや新しい、大谷編年6期の後半のものが出土している。

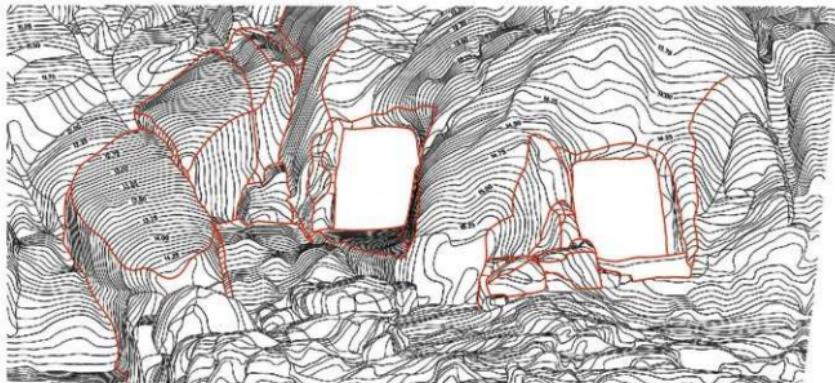
4はおそらく何かの飾りとして用いられたものと考えられる。また、5は刀の切端と思われる。

4については時期は特定できないが、5は横穴墓が造営された時代よりも新しいものである。

須恵器片が閉塞石の下から出土したことなどから、この横穴墓は1回目の埋葬の後閉塞石を外して中のものが出土され、再利用されたと考えられる。その後、1号横穴墓からの侵入により盜掘が行われ黄褐色土層の上面の段階で中のものが出土されたと思われる。

横穴墓内部の流入土は少なかったが閉塞石のため羨門付近は狭いスペースしか空いていなかった。おそらく、玄室内の副葬品は羨門から出したものの、それを行った人間は1号横穴墓から出入りしたとの思われる。

なお、2号穴のすぐ東側には加工痕が残っており、当初横穴墓を造る目的だったものかと推測していたが、おおきな地割れがあるなど造墓に適していないことが分かった。壁面には平らにするための平刃状の加工痕があるため、石を切り出したという痕跡ではなく、どちらかといえば2号横穴墓の前庭及び周辺に広いスペースをとるための加工ではないかと考えられる。

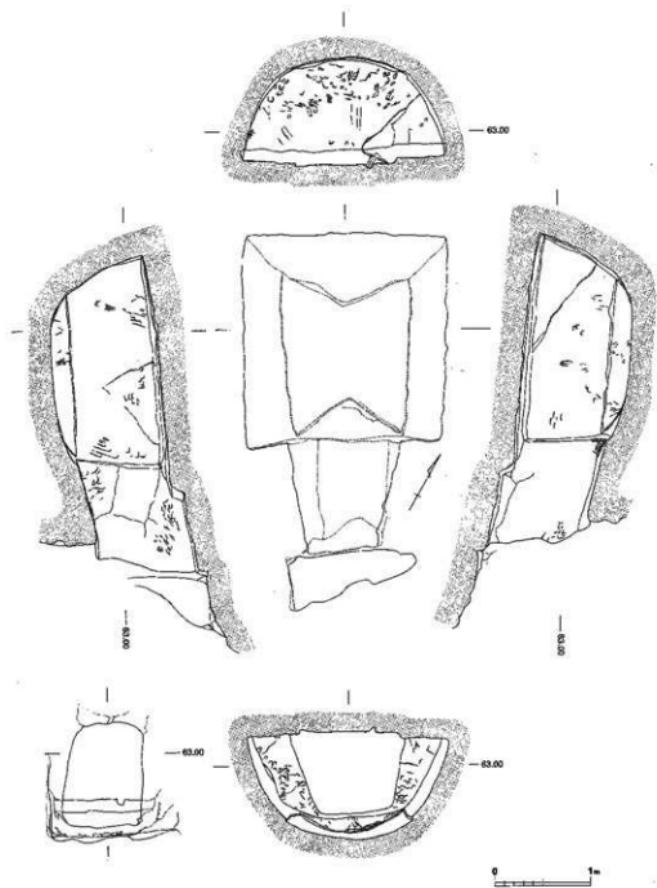


第92図 2号横穴墓 立面図

3号横穴墓

前庭

幅1.4m、長さ45cmで、1号横穴墓同様前庭としてのスペースはほとんど無い。羨門は多少右に傾いている。前庭から羨道に入る部分が1段高くなっている。加工痕はほとんど残っていない。羨門に向かって右側に人頭大の礫が多く積み重ねられていたため閉塞石の可能性があるのではないか、と考えたが特定するに至らなかった。



第93図 3号横穴墓 造構実測図

羨道

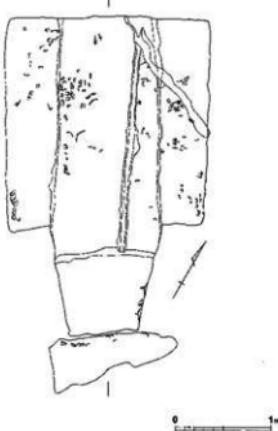
幅75cm、長さ75cmで羨門で右に傾いたまま玄門まで続いている。玄門の30cm手前に1号横穴墓同様床面が1段高くなっている部分があり、その周辺は他よりも多くの加工痕が残っている。

玄室

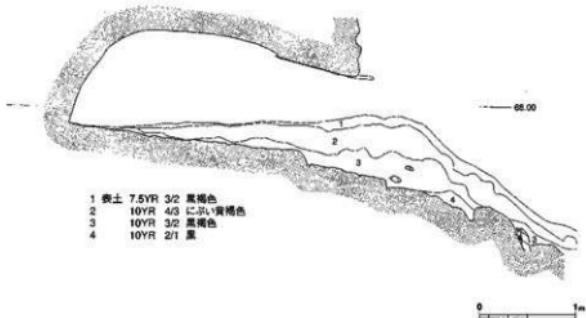
幅2.1m、長さ2.3m、高さ1mで、両側に屍床を造りつけている。屍床は奥が広く手前は玄門の端と壁との幅しかないため狭くなっている。また、奥壁に向かって中央より右寄りに屍床にそって、排水溝と思われる溝が掘られている。この溝と右側の屍床は岩盤の地割れによって寸断されている。他の横穴墓と比較してかなり丁寧に仕上げられており、天井の加工痕はほとんど確認できない。天井はかまぼこ形に加工された上に、屋根形を意識して軒線が入っているが、大棟の線が無く、1・2号横穴墓とは多少の時期差が考えられる。

遺物出土状況

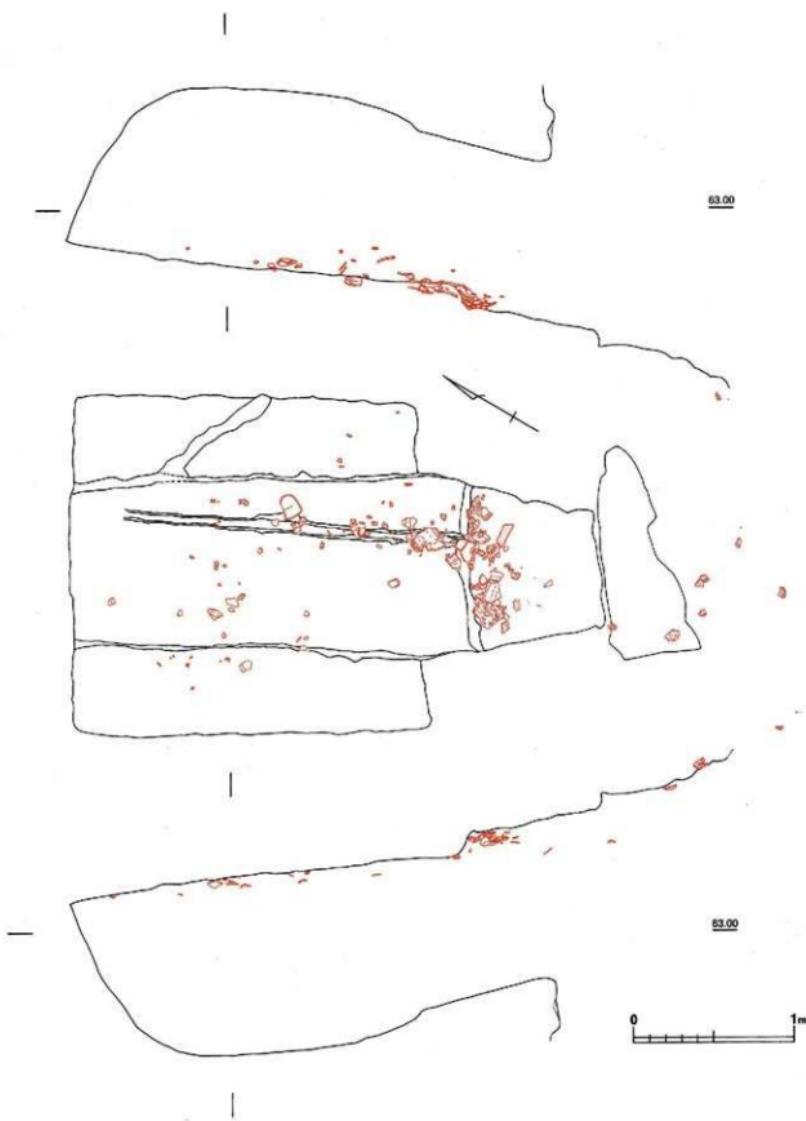
前庭下の斜面からほぼ地山の直上で須恵器蓋坏片が出土しているが、横穴墓内部から須恵器は出土しなかった。羨道から玄室にかけて全体に土師器片が散乱しており、特に羨道から玄室に至る加工段のところに集中していた。おそらく、前庭からの須恵器は最初の埋葬の際の副葬品で、土師器を伴って追葬または横穴を再利用するときに掻き出されたものと考えられる。また溝の中や他の土器片と一緒に鉄製品も出土している。なお、遺物と同じレベルから大量の炭を検出している。



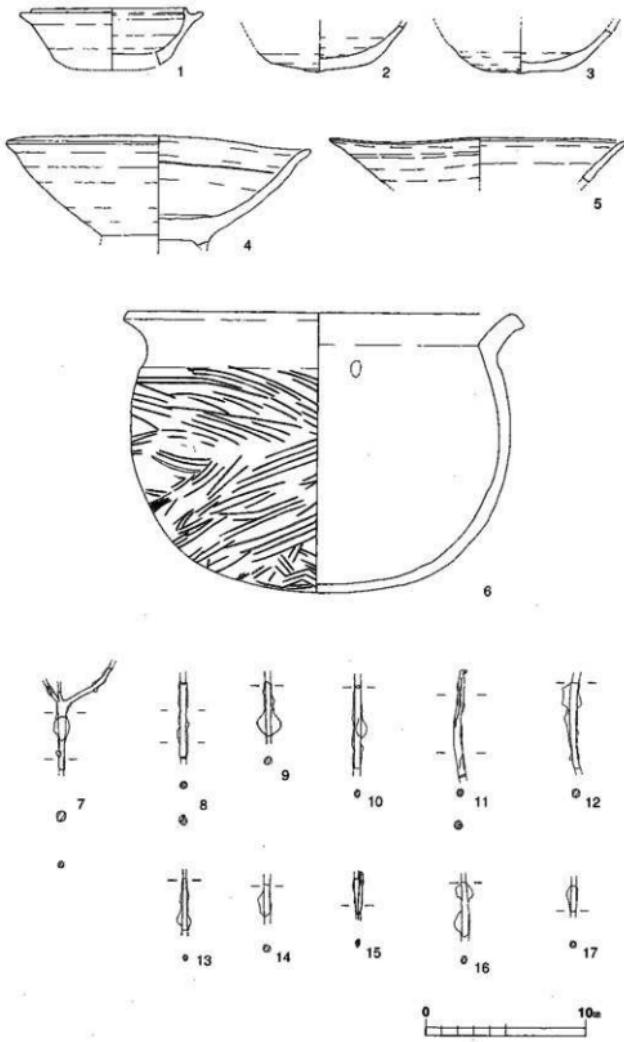
第94図 3号横穴墓 床面加工痕



第95図 3号横穴墓 土層堆積状況



第96図 3号横穴墓 遺物出土状況（網かけ部分は炭）



第97図 3号横穴墓 出土遺物実測図

土層堆積状況

1・2層は自然の流入土である。4層は、追葬または横穴の再利用の際に遺物を掻き出したときの堆積土だと思われる。土師器片、鉄製品は床面直上、または3層中から検出されていること、また土の堆積状況から、横穴墓に流入して堆積していたものを盗掘などの際に掻き出したものと思われる。

遺 物（第97図）

須恵器2点、土師器の破片は接合すると壺1点、坏2点になり、土師器はほぼ完形に近い形になった。1・2は口縁部が1部しか残っていないため判断しづらいところであるが大谷編年の6期に相当すると思われ、横穴墓が造墓された頃のものと思われる。

5は中世頃の骨蔵器と考えられる。出雲地方では見られないものだが、九州などでは壺に火葬骨を納め、坏（または皿）で蓋をしていた例がある（文献1）ため、おそらく5に骨を納め3または4で蓋をしていたのではないかと思われる。大量の炭は盗掘の際のたいまつなどから落ちたものか、または骨蔵器内、または周辺に置くことによって除湿の役目を持たせたものと考えられる。

6から16は全て鉄製品である。6は特徴のある形状をしているがどれも用途は不明である。なお、これらの鉄製品は床面にあったものや多少浮いていたものなど様々な状況で出土した。しかし、須恵器は全て外に出されて横穴墓内部には残っていなかったことから、土師器と同じ2回目以降の埋葬の際に納められたものと思われる。

4号横穴墓

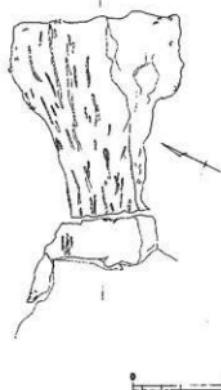
開口方向はN~21°~Wである。

前 庭

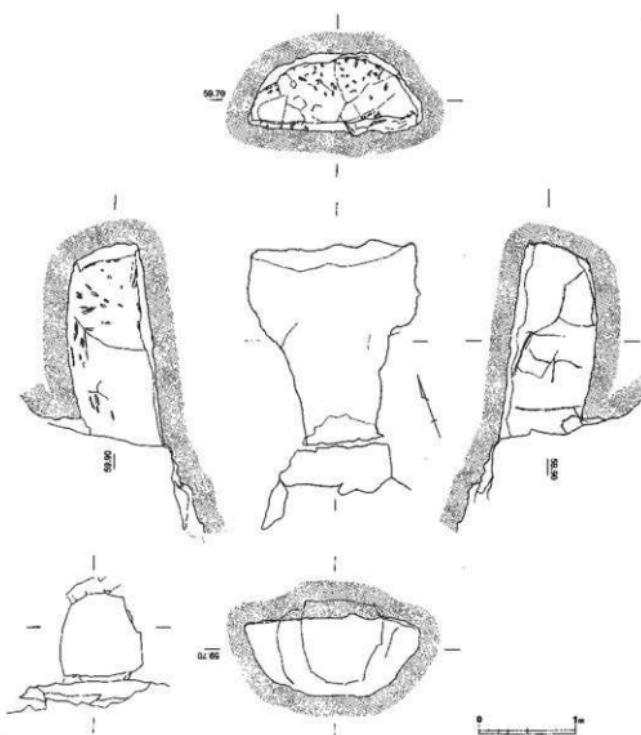
羨門を中心に両側がわりと広く加工されているが、斜面がゆるやかなため実際に前庭として加工されているのはわずかに幅90cm、長さ45cmの範囲でしかない。しかし加工されていない部分も含めると1・3号横穴墓に比べてかなり広い前庭をもっていたことになる。前庭から玄室付近にかけて、溝状の加工痕がみられる。

玄 室

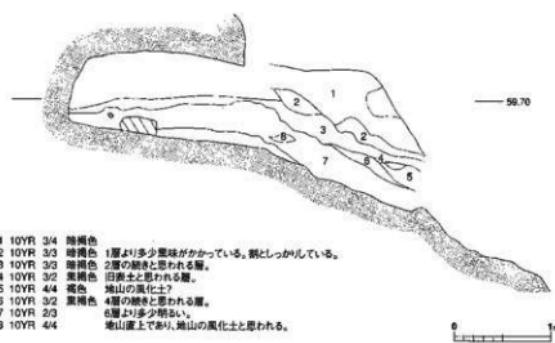
羨道といえる部分はほとんど無く、玄室との境も不明瞭である。玄室部分は幅1.8m、長さ90cmで高さも90cmしかなく、かなり小型のものである。向かって右側半分の床面は剥離しており、加工痕はまったくわからなかった。天井部分はほかの3基とは異なり、九天井、もしくは平天井といった様子である。全体的に加工が粗く、仕上げも雑である。



第98図 4号横穴墓 床面加工痕



第99図 4号横穴墓 遺構実測図



第100図 4号横穴墓 土層堆積状況

遺物出土状況

横穴墓内部からは遺物は出土しなかったが、前庭下の斜面の約5m付近から大量の須恵器片が見つかった。このうち、壺片については尾根上に位置している三田谷3号墳のものであったが、蓋環の破片などは、4号穴に伴うものも含まれていた。また、横穴墓から約1m下の位置からもほぼ完形の須恵器壺蓋が出土しており、こちらは完全に古墳との時期が異なるため横穴墓の遺物と見て間違いない。

土層堆積状況

どの土も自然の流入土だと思われるが、最下層の7層は粘土のように固い層であり、床の加工の粗い部分を覆うように堆積していた。当初は岩盤の風化土と考えていたが、床面の加工の粗いことや、玄門付近のやや段差がある部分に多く堆積していることから、こういった床面の加工の粗さをカバーし、見た目を美しくするために意図的に粘土を置いた可能性も否定できない。

遺物(第101図)

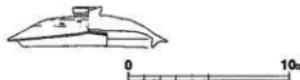
須恵器壺蓋が、前庭から約5mの場所から検出された。そのさらに5m下からは三田谷3号墳に伴う須恵器壺片が多く検出されているが、これはおそらく横穴に伴うものと思われる。

時期は大谷編年6期で、19支群の須恵器で最も新しいものである。

まとめ

調査の結果、19支群は4基からなる支群であることが判明した。3号横穴墓出土須恵器と1・2号横穴墓出土須恵器は形式に若干の差がみられるため、3号横穴墓→1・2号横穴墓の順に築造されたものと思われる。4号横穴墓については前庭下からの遺物から判断すれば最も新しいものとなるが、後世のものであること、または他の遺構に伴うもの可能性が否定できない。横穴墓の形態のみから判断すれば4基中最も古い形であるといえる。2・3号横穴墓についてはほぼ確実に後世に再利用されており、3号横穴墓の遺物からその時期を中世まで追うことができる。

1・3号横穴墓の玄門付近の段差については、同じ上塩治横穴墓群第23支群のいくつかにも同じような加工が見られる。また、出雲地方というやや広い視野で見てみると、同じような段差を持つ横穴墓は松江市中竹矢2号穴、狐谷4号横穴墓、八雲村まつざこ1号などがある。決して数としては多くないが、一定の地域に限られたものではなく、ある程度の範囲に広がっているものと思われる。



第101図 遺物実測図

第19支群 遺物観察表

掲図 番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
86-1	図版72	1号穴前庭	須恵器 坏身	口径：8.1 器高：3.3 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1~2mmの砂粒を少量含む	良好	外面：灰白色 内面：青灰色	
86-2	◆	1号穴前庭	須恵器 坏身	口径：12.1 器高：3.8 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	2~3mmの砂粒がごく少量	良好	外面：灰褐色 内面：灰褐色	
86-3	◆	1号穴前庭	須恵器 坏身	口径：9.6 器高：3.6 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面：青灰色 内面：青灰色	
90-1	図版73	2号穴前庭	須恵器 坏蓋	口径：11.6 器高：2.2 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1~3mmの砂粒多く含む	良好	外面：青灰色 内面：明青灰色	外面に自然釉
90-2	◆	2号穴前庭	須恵器 坏蓋	口径：11.6 器高：3.0 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒少 量含む	良好	外面：青灰色 内面：明青灰色	
90-3	◆	2号穴前庭	須恵器 坏身	口径：8.7 器高：3.8 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒多く含む	良好	外面：明青灰色 内面：明青灰色	
90-4	◆	2号穴前庭	須恵器 坏身	口径：10.4 器高：3.6 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm程度の砂粒少 量含む	良好	外面：青灰色 内面：青灰色	
90-5	◆	2号穴前庭	須恵器 坏身	口径：9.0 器高：3.6 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1~2mm程度の砂粒少 量含む	良好	外面：青灰色 内面：明青灰色	
97-1	図版74	3号穴前庭	須恵器 坏身	口径：9.5 器高 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm程度の砂粒を少 量含む	良好	外面：青灰色 内面：青灰色	反転復元
97-2	◆	3号穴前庭	須恵器 坏身	口径 器高 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒を少 量含む	良好	外面：暗青灰色 内面：暗青灰色	約30%残存
97-3	◆	3号穴前庭	須恵器 坏身	口径 器高 底径	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	1~2mm以下の砂粒少 量含む	やや不良	外面：暗灰色 内面：やや黄味 香びた灰白色	約30%残存
97-4	◆	3号穴裏道 ～玄室	土師器 坏	口径：19.0 器高 底径	外面：ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒を少 量含む	良好	外面：淡橙色 内面：淡橙色	
97-5	図版75	3号穴裏道 ～玄室	土師器 坏	口径：18.6 器高 底径	外面：ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒を少 量含む	良好	外面：淡橙色 内面：淡橙色	1部赤色顔料付着

掲図 番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
97-6	図版75	3号穴戻道 ~玄室	土師器 壺	口径: 23.9 器高: 17.5 底径	外面: ナデ後ハケ目 内面: ナデ	1mm以下の砂粒を 少量含む	良好	外面: 淡橙色 内面: 淡橙色	外面に赤色顔 料付着
101-1	*	4号穴付近	須恵器 壺蓋	口径: 9.9 器高: 2.5 底径	外面: ケズリ後ナデ 内面: ナデ	1mm以下の砂粒を 少量含む	良好	外面: 青灰色 内面: 青灰色	

掲図 番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	備 考
86-4	図版72	1号穴羨道	鉄製品	幅 : 1.0 厚さ : 0.6	用途不明
86-5	◆	1号穴前庭	鉄製品	残存長 : 2.4	止め金具?
90-6	図版74	2号穴前庭	鉄製品	最大径 : 3.2 厚さ : 0.1	飾り金具?
90-7	◆	2号穴前庭	鋼製品	縱 : 4.2 最大径 : 2.3 厚さ : 0.1	刀の切端?
97-7	図版75	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.9 残存長 : 6.4	用途不明
97-8	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.5 残存長 : 4.7	用途不明
97-9	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.4 残存長 : 3.4	用途不明
97-10	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.4 残存長 : 5.2	用途不明
97-11	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.5 残存長 : 5.3	用途不明
97-12	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.3 残存長 : 3.2	用途不明
97-13	◆	3号穴羨道	鉄製品	最大幅 : 0.4 残存長 : 2.0	用途不明
97-14	◆	3号穴前庭	鉄製品	最大幅 : 0.6 残存長 : 2.6	用途不明
97-15	◆	3号穴前庭	鉄製品	最大幅 : 0.5 残存長 : 3.3	用途不明

挿図 番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	備考
97-16	図版75	3号穴羨道	鉄製品	最大幅:0.4 残存長:1.6	用途不明

上塩治横穴墓群 第19支群

図 版



上塙治横穴墓群
19支群 全景



1号横穴墓 調査前



閉塞石



1号横穴墓 閉塞石（上から）



完掘状況



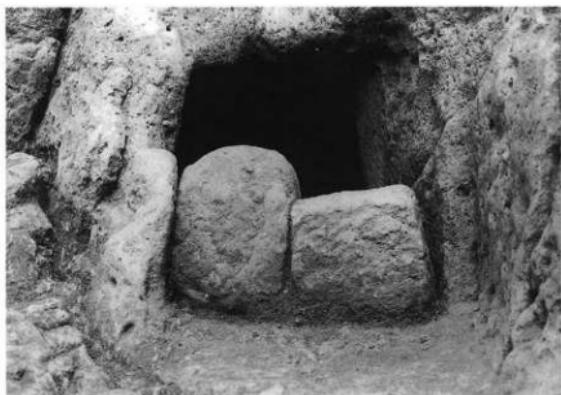
玄室内部



1号横穴墓 羨門（玄室から）



2号横穴墓 土層堆積状況



閉塞石



2号横穴墓 無門及び加工痕



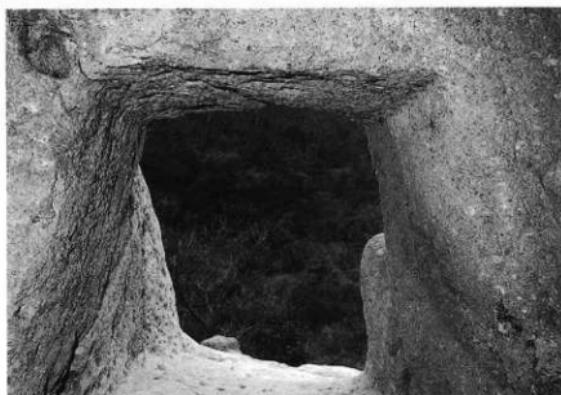
玄室内部



玄室天井 加工痕



2号横穴墓 盗掘坑



羨門（玄室から）



前庭出土遺物



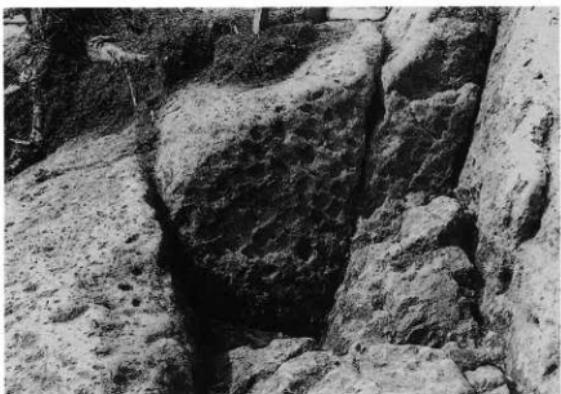
2号横穴墓
閉塞石下出土遺物



羨道遺物出土狀況



前庭遺物出土狀況



2号横穴墓 横 加工痕



同上（拡大）



1・2号横穴墓 遠景



3号横穴墓 調査前



羨門（前庭から）



羨門（玄室から）



3号横穴墓 玄室内部



玄室床面



前庭遺物出土狀況



3号橫穴墓
羨道遺物出土狀況



玄室遺物出土狀況



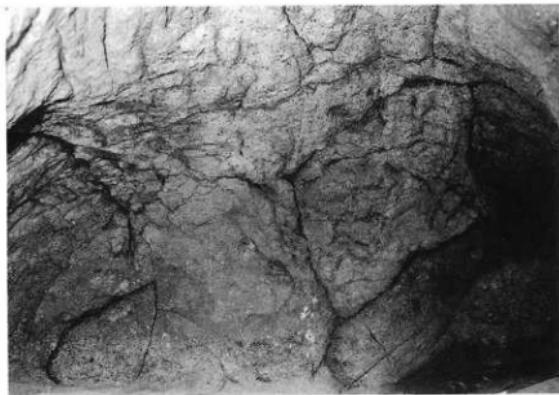
排水溝內遺物出土狀況



4号横穴墓 調査前



羨門（前庭から）



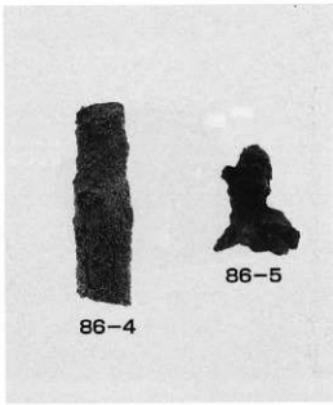
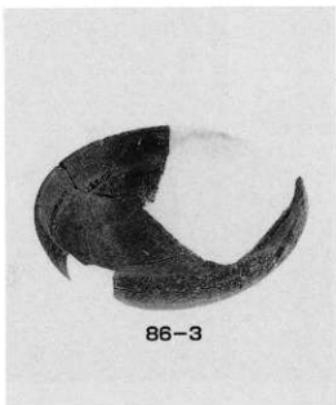
玄室内部



4号横穴墓、奥門（玄室から）



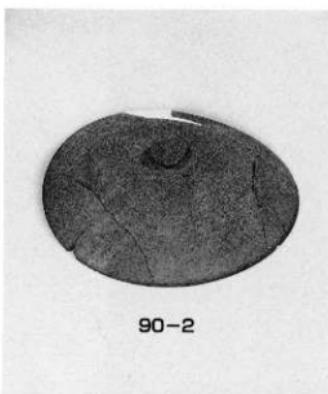
前庭下方 遺物出土状況



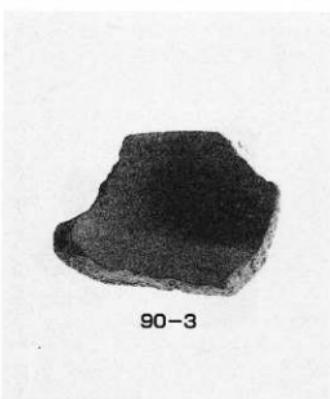
1号横穴墓 出土遺物



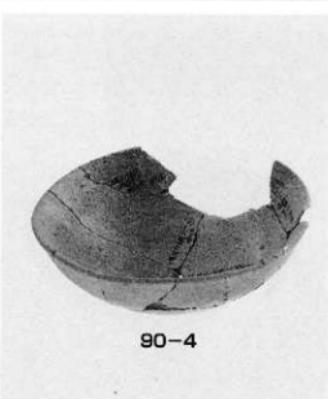
90-1



90-2



90-3



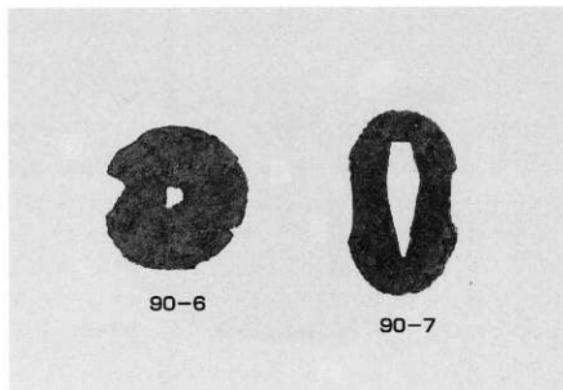
90-4



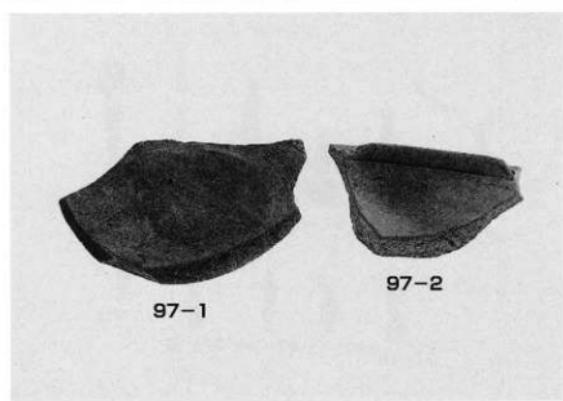
90-5

2号橫穴墓 出土遺物

2号横穴墓 出土遗物



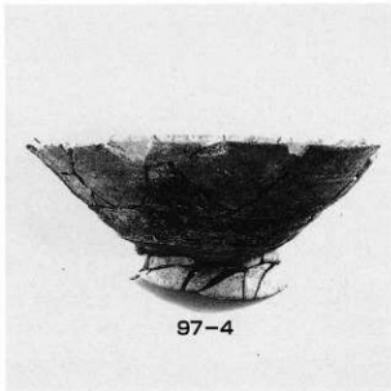
3号横穴墓 出土遗物



97-3

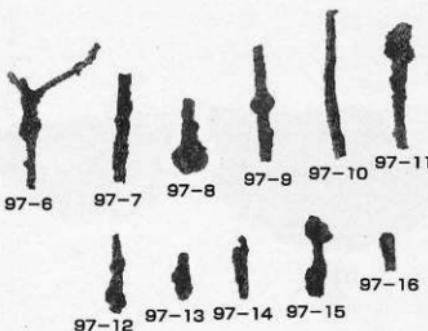


97-4

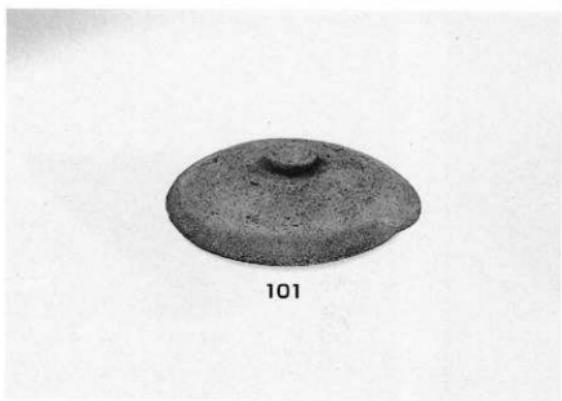




3号横穴墓 出土遗物



3号横穴墓 出土遗物



101

4号横穴墓 出土遗物

VI. 上塙冶横穴墓群 第38支群

VI. 上塩治横穴墓群第38支群

調査の概要

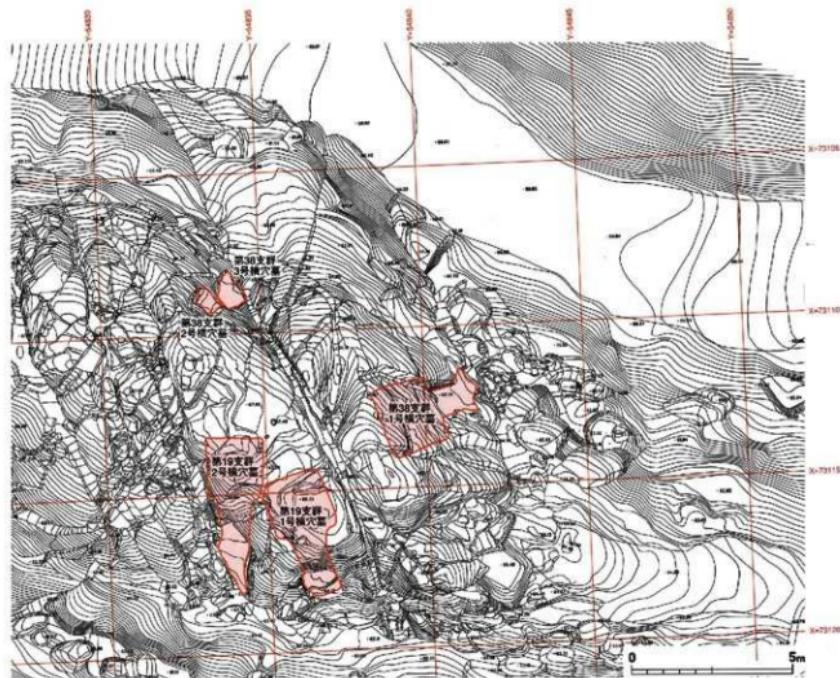
当支群は出雲平野の南側大井谷の奥に派生した、小さな谷の最深部にあり、横穴墓は東側に3基開口している。

遺跡の周辺は、北側に三田谷3号墳、大井谷Ⅲ遺跡、上塩治横穴墓群第18支群、尾根を挟んだ西側に同群第19支群、尾根上と南側に石切場跡が確認されているように、遺跡の密集地帯となっている。

第38支群で確認されている3基の横穴墓は、実際に使用されたと推定される南側の1基と、造墓段階のものと推定される北側の2基に分けられ、これらはそれぞれ小支群である可能性も考えられる。

調査では実際に使用されたと推定される横穴墓を1号横穴墓、造墓段階のものと推定される2穴のうち、斜面上方に位置するものを2号横穴墓、斜面下方に位置するものを3号横穴墓とし、調査を実施した。

調査の結果、2・3号横穴墓からは遺物は出土しなかった。一方、1号横穴墓は盜掘を受けており、



第102図 上塩治横穴墓群第38支群 横穴墓位置図